

人とつながるということ

校長 高田 晶子

9月13日（月）に元郷中学校 体育祭を実施いたしました。計画当初から「盛り上がるだろうか」「雰囲気はどうか」という思いがありましたが、不安を全く感じない、“躍動あり”“笑顔あり”の充実した時間を過ごすことができました。このように実施することができたのは、PTA会長をはじめ執行部や広報部の役員の皆様の援助によるものでした。本当にありがとうございました。教職員も生徒たちの「超、楽しかった！」と言いながら下校していく姿に元気をもらっています。



さて、学校生活は、集団生活を行う中で自分磨きをする場と言われます。仲間の生活する姿から自分の生活を振り返ってみたり、今の自分にはない新しい発見をさせてもらったりします。13日に行われた体育祭では、まさに多くのことを得た人（生徒だけでなく教職員も）がほとんどだったでしょう。仲間の姿を見て学ぶ、同じ空間にいて学ぶ。本当に素敵な時間でした。

ところで、人とのつながりは、困ったときにこそ強く思うことはありませんか。「困ったときには相談をしましょう」という最近身近になってきた案内は、とても大切な言葉だと思います。一人で抱えたり考え込んでいたりするだけではなく、他者の意見を聞いてみるのが、前に進む一歩になるということは多くあります。他者に頼ってみることも困難を乗り越えるうえで大事なことだと思います。気軽に相談できる人とのつながりは大切にしていきたいです。しかし一方では、人に頼ることを恐れてしまう人もいるでしょう。そこには、信頼する人がいるかいないかという大きな壁があるのかもしれませんが。声を上げたくても上げられない。声を上げられないときはどうしたものでしょうか。

大人は、子供たちに「何かあったら信頼できる大人の人に話そうね。」と言います。ぜひ、相談してほしいですし、大人と子供の関係がそうあってほしいです。でももしかすると、話してみたら受け止めてもらえないことや、助けてもらえないこともあるかもしれません。

また、大人にしてもそういうことはあるのではないのでしょうか。「せっかく話したのに。」という思いになった経験を持つ方もいるでしょう。もう相談したくないと思ってしまうこともあるかもしれません。だからと言って、あきらめてつながりを断ってしまったらそれこそ八方塞がりになってしまいます。

人とつながるということは、その裏側に「あなたを助ける人は、必ずいるよ」というメッセージが込められていると思います。一人一人の自分の心の感覚を信じてあきらめずにいれば、助けてくれる人は必ずいる。だから人はつながっていることで、助けられるし、そのつながりから人をつなげていくこともできるのではないかと。

困ったときに声をあげられるようなつながり、頼れるつながり、時に勇気を出してそのような人とのつながりのある生活を過ごしていけたらと思うこの頃です。